



データ構造 with Haskell

目次

- Stack
- Queue
- Deque

目次

- Stack
- Queue
- Deque

- 全部配列を使えば一瞬じゃないか！
いいかげんにしろ！

残念ながら

配列なんて無いよ

Haskellのデータ構造

- 配列は一応あるよ
 - ただし代入に $O(N)$ かかる

Haskellのデータ構造

- リストというのを使います
- 次の操作が可能
 - 先頭に値を追加 $O(1)$
 - 先頭から削除 $O(1)$
 - n 番目にアクセス $O(n)$
- 厳密にはちょっと違うけどだいたいあってる

Haskellのリスト

- `[3, 1, 4, 1, 5]` -- リストの例
- 追加
 - `9 : [3, 1, 4, 1, 5] → [9, 3, 1, 4, 1, 5]`
- 先頭を得る
 - `head [3, 1, 4, 1, 5] → 3`
- 先頭以外を得る
 - `tail [3, 1, 4, 1, 5] → [1, 4, 1, 5]`
 - `tail [1] → []` -- 空のリスト

Haskellのリスト

- 先頭にくっつける (:)
- 先頭を参照する head
- 先頭以外を参照する tail
- これらは以降たくさん出てくるのでよく覚えていてね

1つめのデータ構造

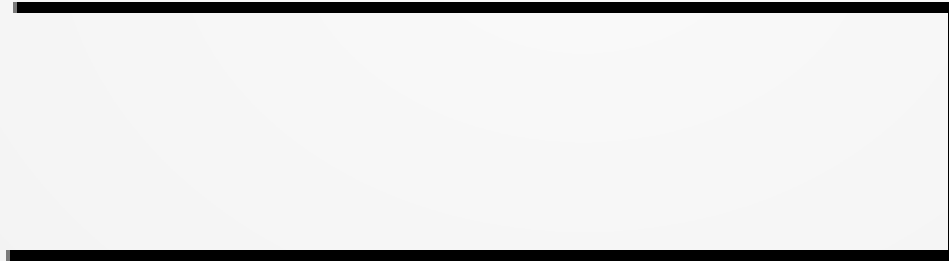
Stack

Stack

- 次の操作に対応したデータ構造
 - 列の先頭に値を追加 (push)
 - 列の先頭から値を取り出す (pop)

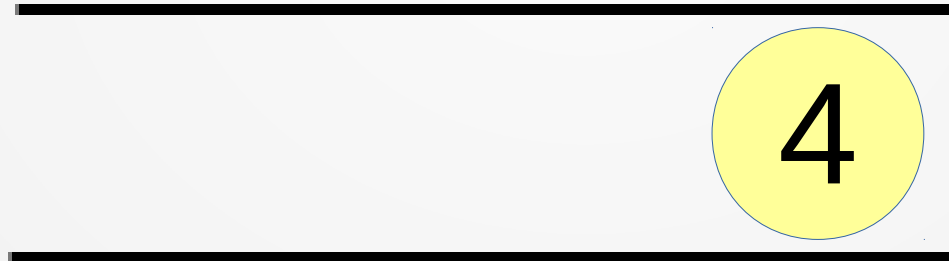
Stack:図示

- 空のStackがあるじゃろ
 - 左側が先頭



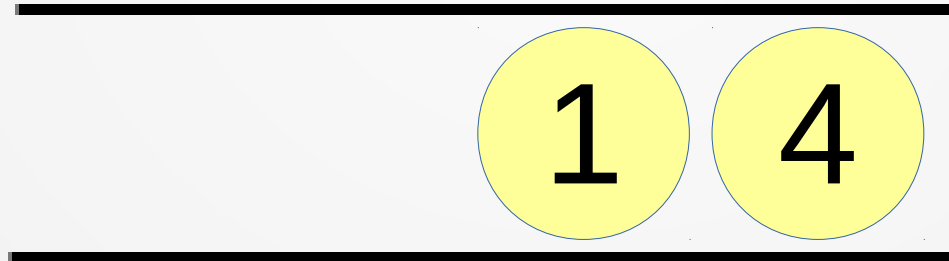
Stack: 図示

- push(4)



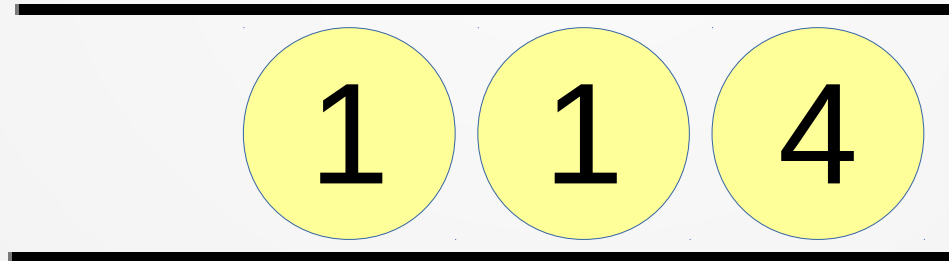
Stack: 図示

- push(4), push(1)



Stack: 图示

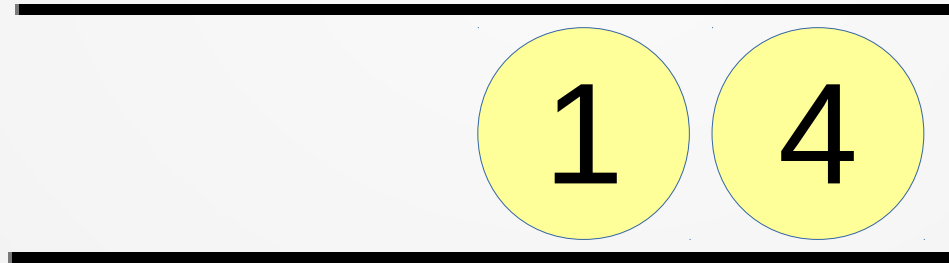
- `push(4)`, `push(1)`, `push(1)`



Stack: 图示

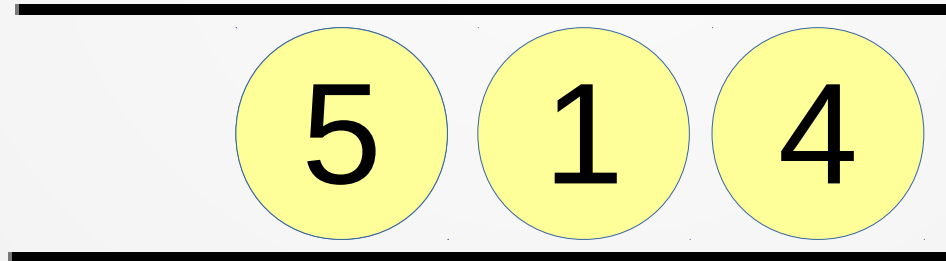
- `push(4), push(1), push(1), pop()`

1



Stack: 图示

- `push(4)`, `push(1)`, `push(1)`, `pop()`, `push(5)`



Stack

- 次の操作に対応したデータ構造
 - 列の先頭に値を追加 (push)
 - 列の先頭から値を取り出す (pop)

Stack

- 次の操作に対応したデータ構造
 - 列の先頭に値を追加 (push)
 - 列の先頭から値を取り出す (pop)
- すごい既視感

Haskellのデータ構造（再掲）

- リストというのを使います
- 次の操作が可能
 - 先頭に値を追加 $O(1)$
 - 先頭から削除 $O(1)$
 - n 番目にアクセス $O(n)$
- 厳密にはちょっと違うけどだいたいあってる

Haskellのデータ構造（再掲）

- リストというのを使います
- 次の操作が可能
 - 先頭に値を追加 $O(1)$
 - 先頭から削除 $O(1)$
 - n 番目にアクセス $O(n)$
- 厳密にはちょっと違うけどだいたいあってる

Stack

- スタック
- リストをそのまま使える
 - やったぜ

Stack: 実装

(ソースコードをここに書く)

(説明をここに書く)

Stack: 実装

```
Data Stack a = S [a]
```

Stack型の定義

Stack: 実装

```
Data Stack a = S [a]
```

```
push (S xs) x = S (x:xs)
```

pushの定義

Stack: 実装

Data Stack a = S [a]

push (S xs) x = S (x:xs)

pop (x:xs) = (x, S xs)

popの定義

Stack: 実装

```
Data Stack a = S [a]
```

```
push (S xs) x = S (x:xs)
```

```
pop (x:xs) = (x, S xs)
```

空のStackをpopしないことは
良心にまかせる

Stack: 実装

```
Data Stack a = S [a]
```

```
push (S xs) x = S (x:xs)
```

```
pop (x:xs) = (x, S xs)
```

完成

1つめのデータ構造

Queue

Queue

- 次の操作に対応したデータ構造
 - 列の先頭に値を追加 (push)
 - 列の末尾から値を取り出す (pop)

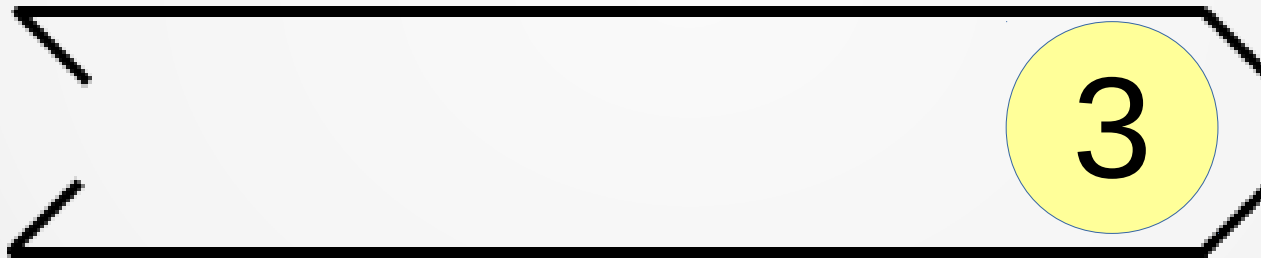
Queue: 図示

- 空のQueueがあるじゃろ
 - 左側から入って、右側から出る



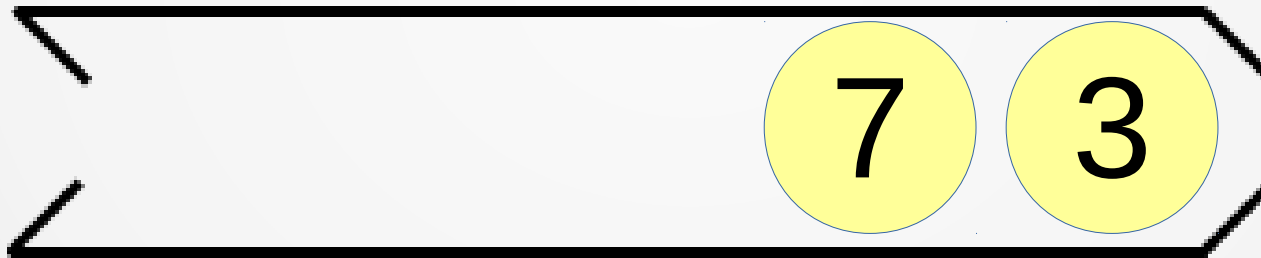
Queue: 図示

- push(3)



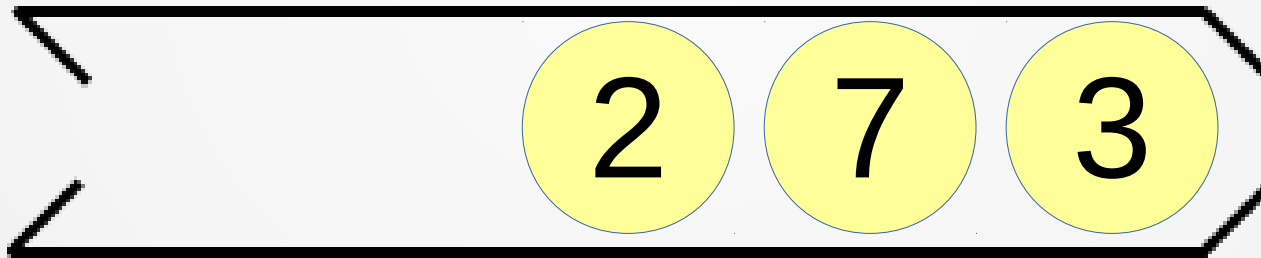
Queue: 図示

- push(3), push(7)



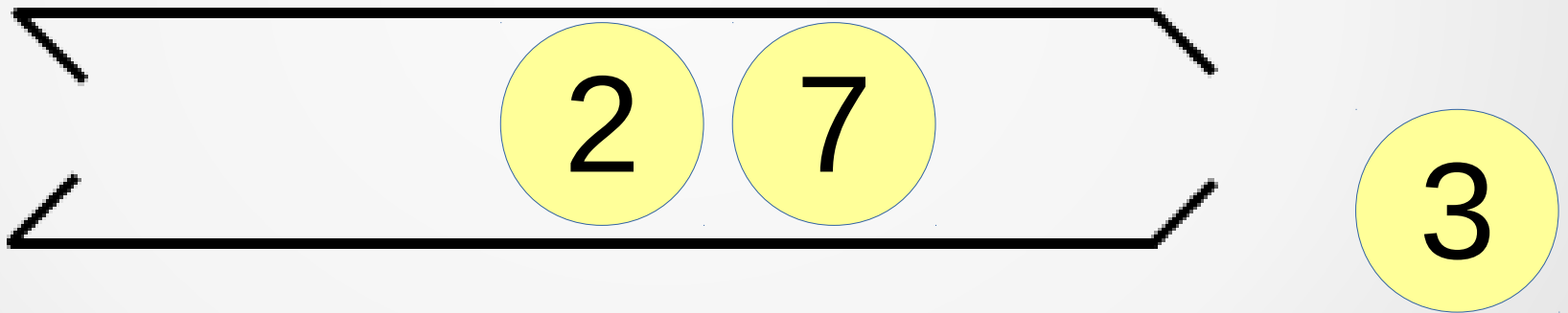
Queue: 図示

- `push(3)`, `push(7)`, `push(2)`



Queue: 図示

- `push(3)`, `push(7)`, `push(2)`, `pop()`



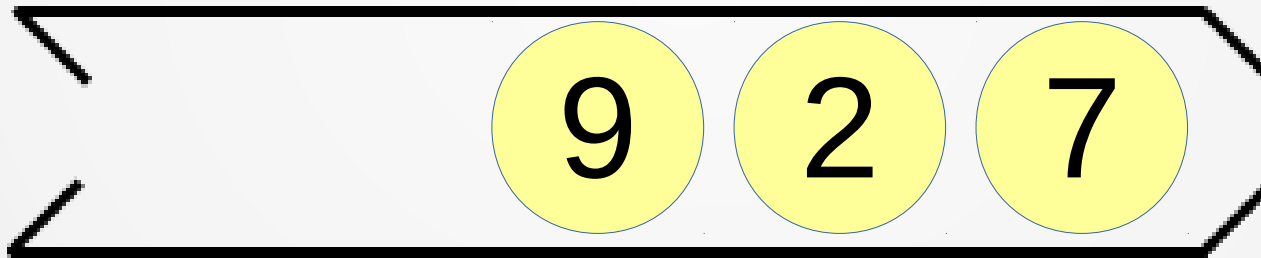
Queue: 図示

- `push(3)`, `push(7)`, `push(2)`, `pop()`



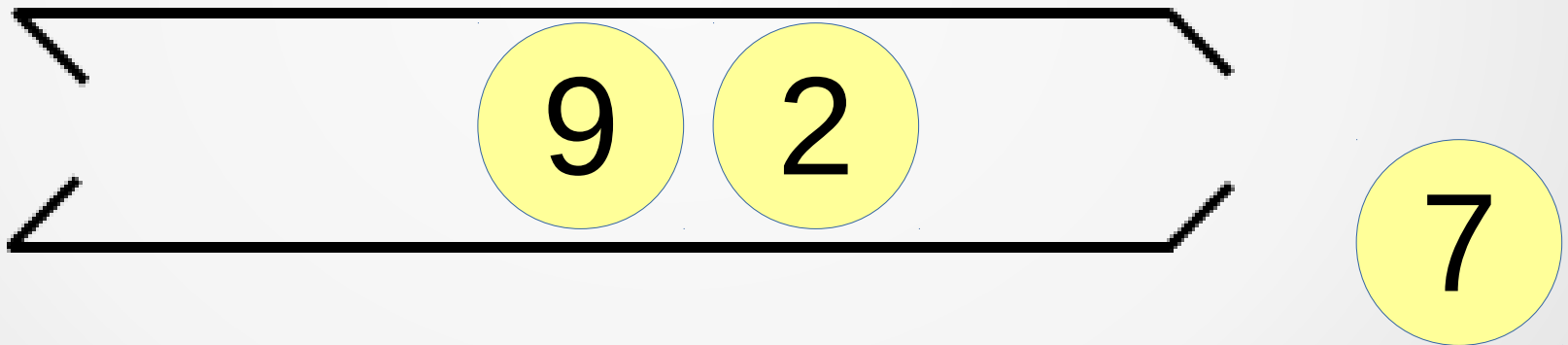
Queue: 図示

- `push(3)`, `push(7)`, `push(2)`, `pop()`, `push(9)`



Queue: 図示

- push(3), push(7), push(2), pop(), push(9)
pop()



Queue

- 次の操作に対応したデータ構造
 - 列の先頭に値を追加 (push)
 - 列の末尾から値を取り出す (pop)

Queue

- 次の操作に対応したデータ構造
 - 列の先頭に値を追加 (push)
 - 列の末尾から値を取り出す (pop)
 - リストの末尾の操作は厄介

Queue

- 次の操作に対応したデータ構造
 - 列の先頭に値を追加 (push)
 - 列の末尾から値を取り出す (pop)
 - リストの末尾の操作は厄介
 - しかしデータ構造の申し子である皆さんなら対処法をすぐに思いつくはず

有名なことわざ

QueueはStack2つで作れる

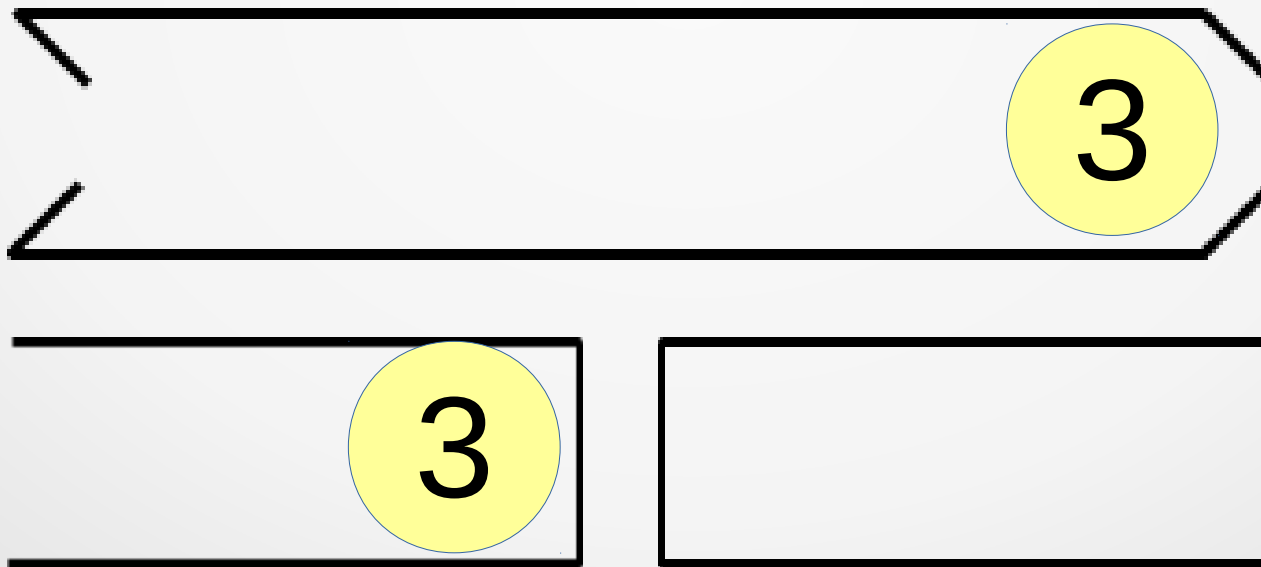
Queue: 図示

- 空のQueueの下に2つのStackがあるじゃろ



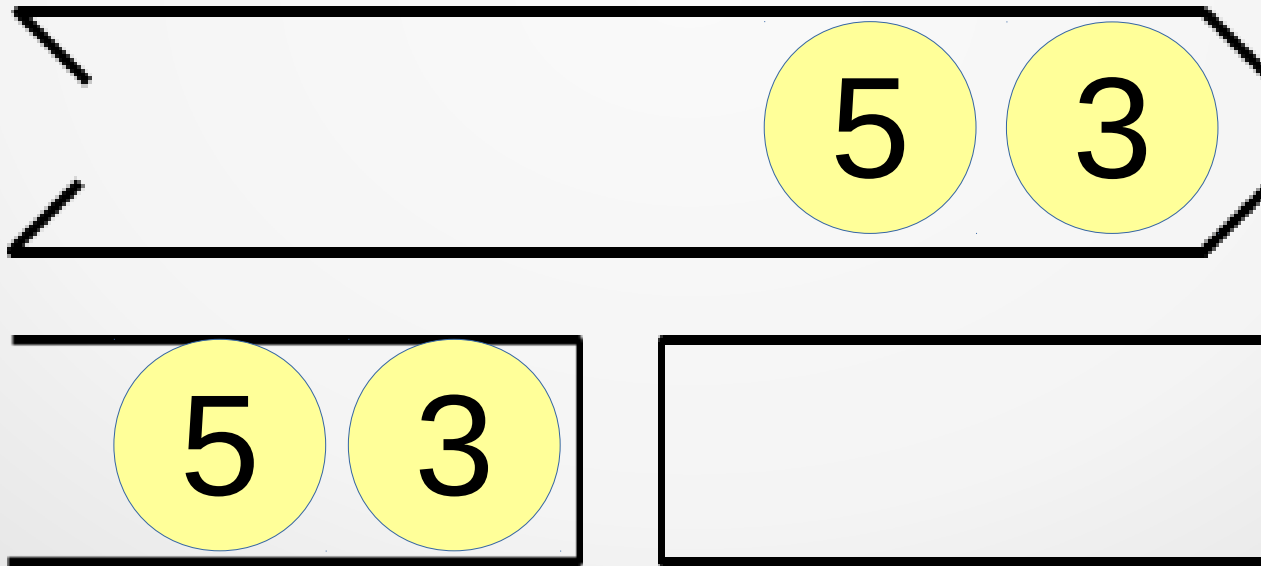
Queue: 図示

- push(3)



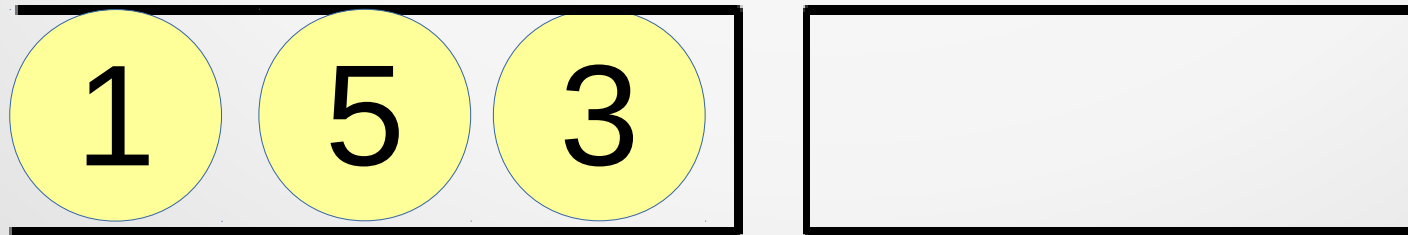
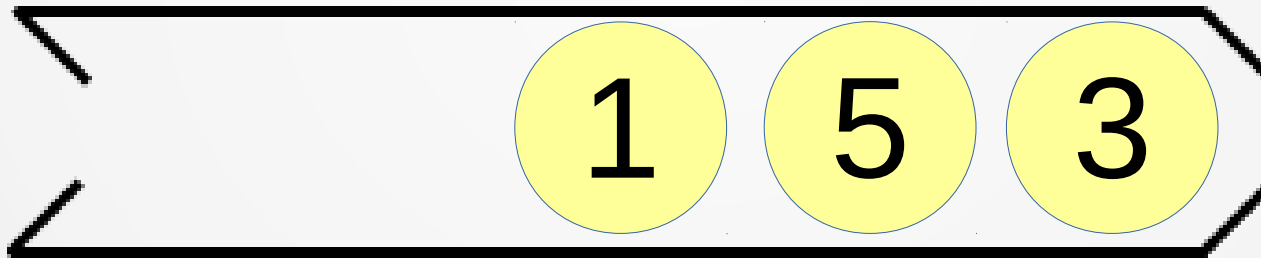
Queue: 図示

- push(3), push(5)



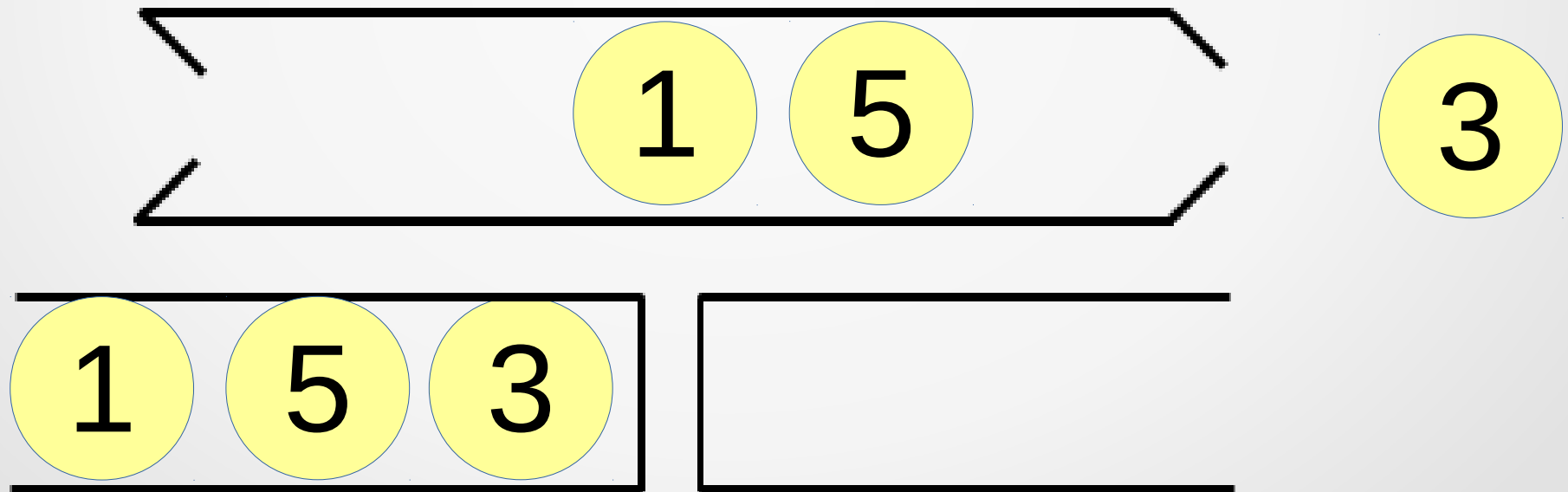
Queue: 図示

- `push(3)`, `push(5)`, `push(1)`



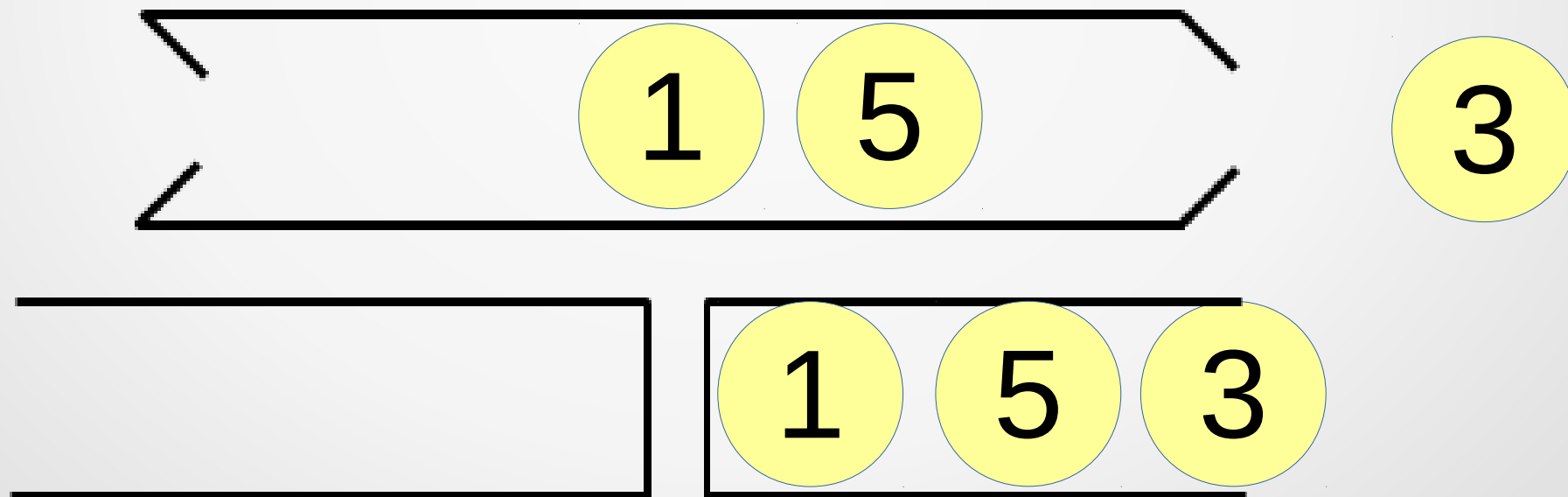
Queue: 図示

- `push(3)`, `push(5)`, `push(1)`, `pop()`



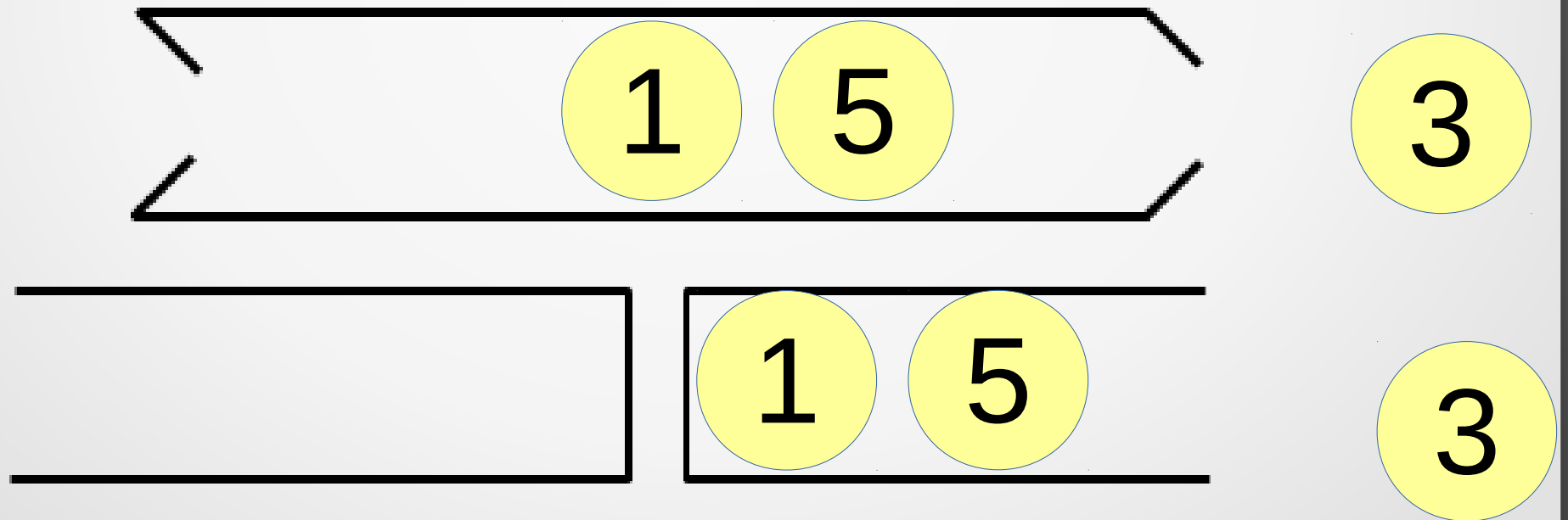
Queue: 図示

- push(3), push(5), push(1), pop()
- pop時右側が空だったらエイヤツする



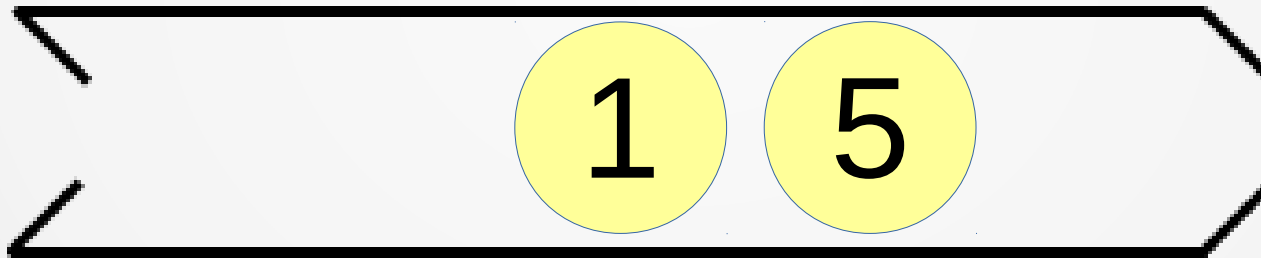
Queue: 图示

- `push(3)`, `push(5)`, `push(1)`, `pop()`



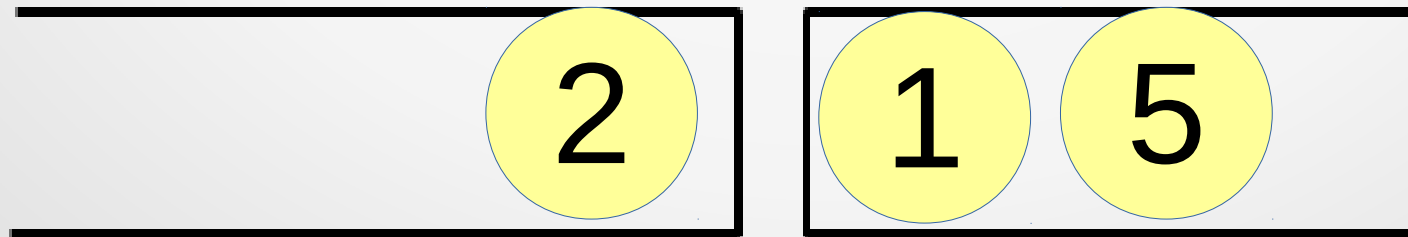
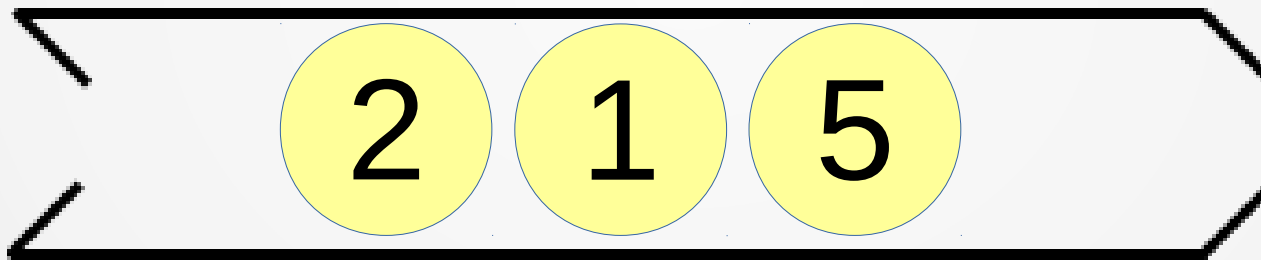
Queue: 図示

- `push(3)`, `push(5)`, `push(1)`, `pop()`



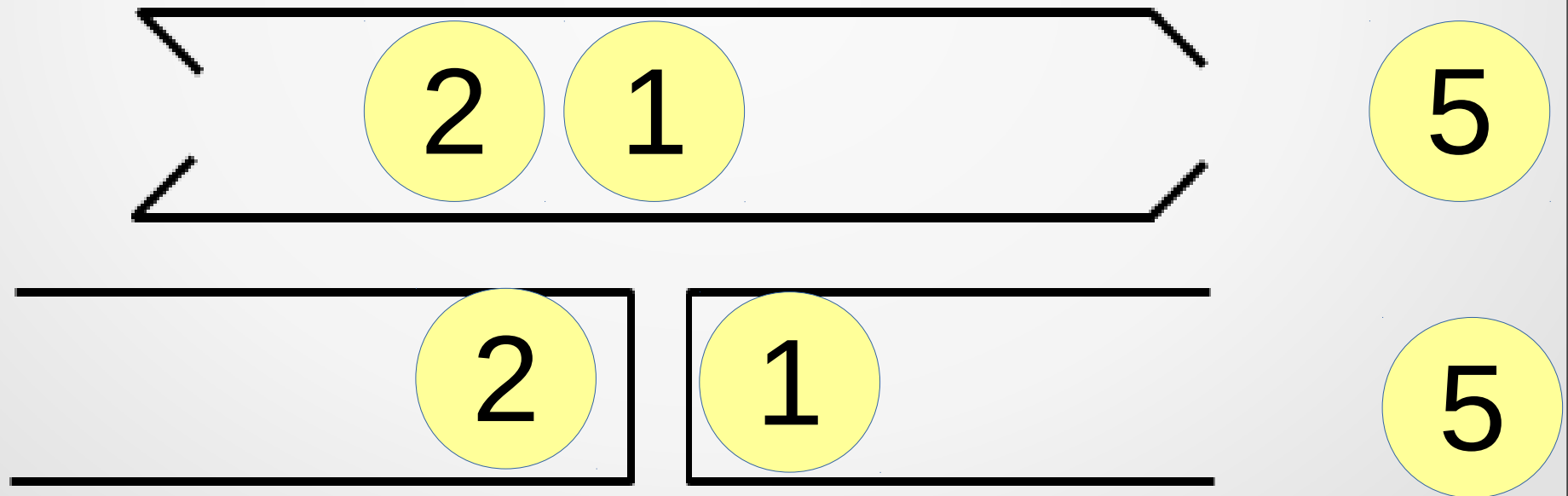
Queue: 图示

- push(3), push(5), push(1), pop(), push(2)



Queue: 図示

- push(3), push(5), push(1), pop(), push(2), pop()

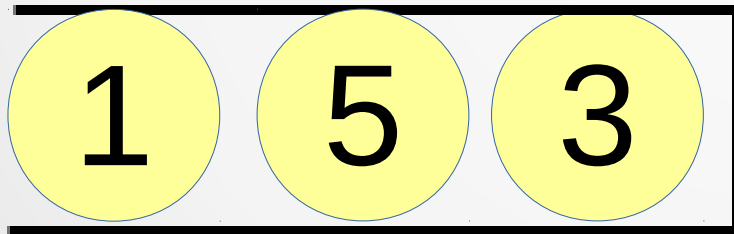


Queue(Stack×2)

- Stackはさっき実装したばかりだしやるだけじゃん！
- 一番ややこしいのはpopするときに右側のStackが空だった時

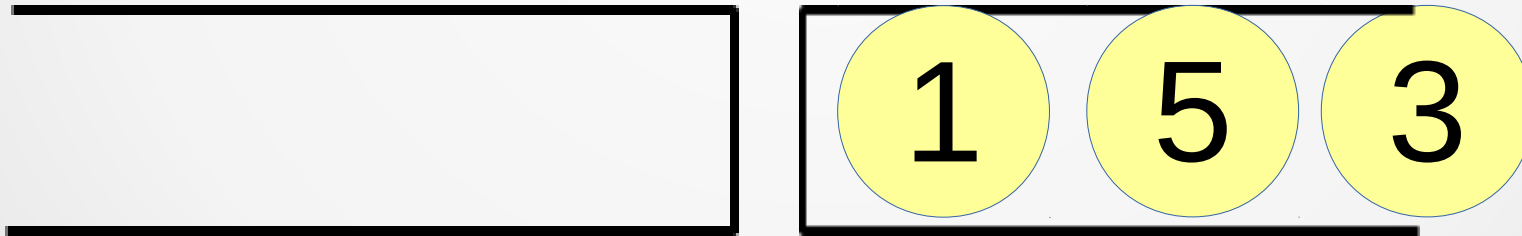
Queue(Stack×2)

- Stackはさっき実装したばかりだしやるだけじゃん！
- 一番ややこしいのはpopするときに右側のStackが空だった時



Queue(Stack×2)

- Stackはさっき実装したばかりだしやるだけじゃん！
- 一番ややこしいのはpopするときに右側のStackが空だった時



エイヤッ

Queue(Stack×2)

- Stackはさっき実装したばかりだしやるだけじゃん！
- 一番ややこしいのはpopするときに右側のStackが空だった時
- Stackがただのリストであったことを思い出すと、**エイヤツ**はただのリスト反転
 - 標準で reverse という関数がある

Queue: 実装

(実装をここに書く)

(説明をここに書く)

Queue: 実装

```
Queue a = Q [a] [a]
```

Queueの型を定義 リスト2つ

Queue: 実装

```
Queue a = Q [a] [a]
```

```
push (Q xs ys) x = Q (x:xs) ys
```

push の実装 (Stackと同様)

Queue: 実装

`Queue a = Q [a] [a]`

`push (Q xs ys) x = Q (x:xs) ys`

`pop (Q xs y:ys) = (y (Q xs ys))`

右側が空じゃない時のpop

Queue: 実装

```
Queue a = Q [a] [a]
```

```
push (Q xs ys) x = Q (x:xs) ys
```

```
pop (Q xs y:ys) = (y (Q xs ys))
```

```
pop (Q xs []) =  
    pop (Q [] (reverse xs))
```

右側が空の時のpop

3つめのデータ構造

Deque

Deque

- 次の操作に対応したデータ構造
 - 列の先頭に値を追加 (pushF)
 - 列の末尾に値を追加 (pushB)
 - 列の先頭から値を取り出す (popF)
 - 列の末尾から値を取り出す (popB)

Deque: 図示

- ここに空のDequeがあるじゃろ
 - 左が先頭(Front), 右が末尾 (Back)

Deque: 図示

- pushF(3)



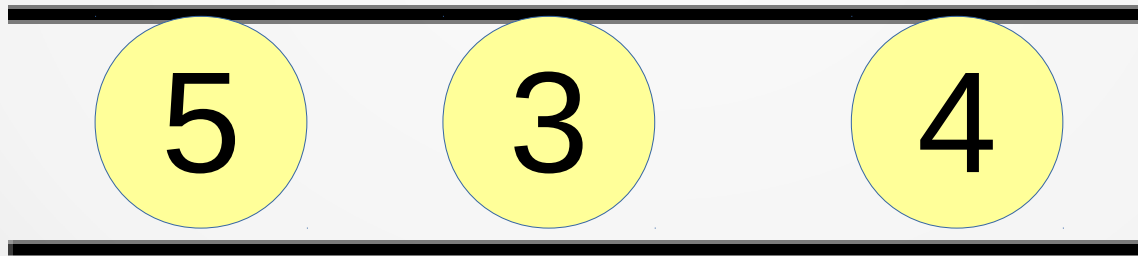
Deque: 図示

- pushF(3), pushB(4)



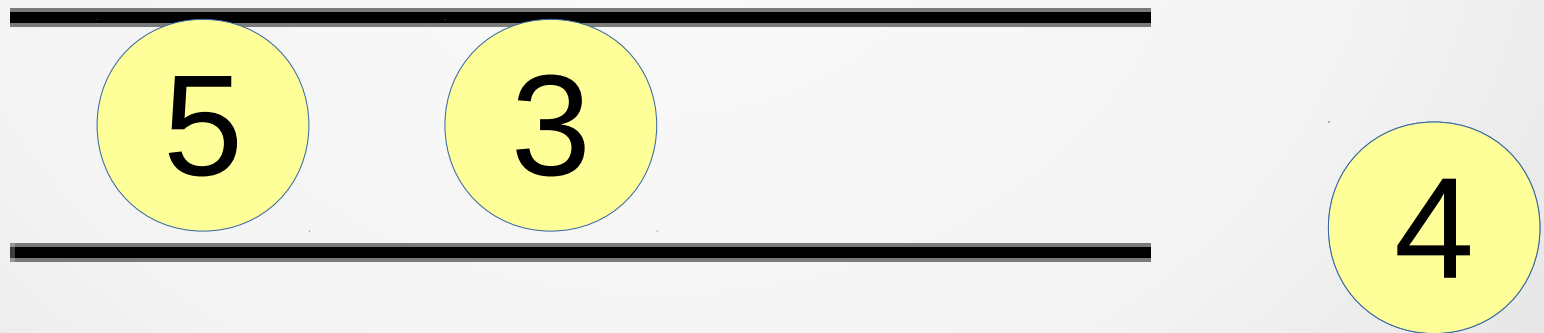
Deque: 図示

- pushF(3), pushB(4), pushF(5)



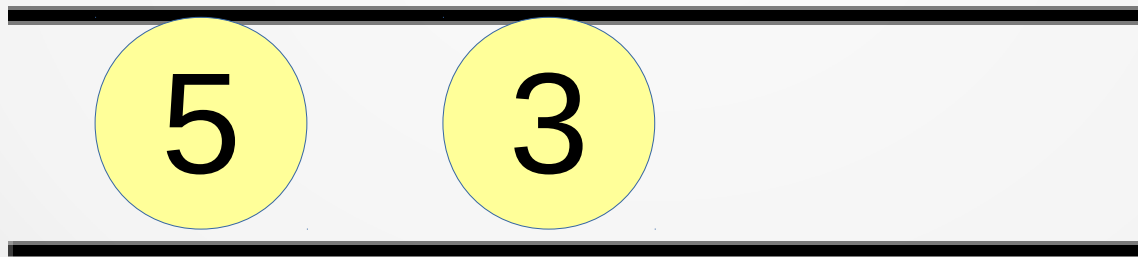
Deque: 図示

- `pushF(3)`, `pushB(4)`, `pushF(5)`, `popB()`



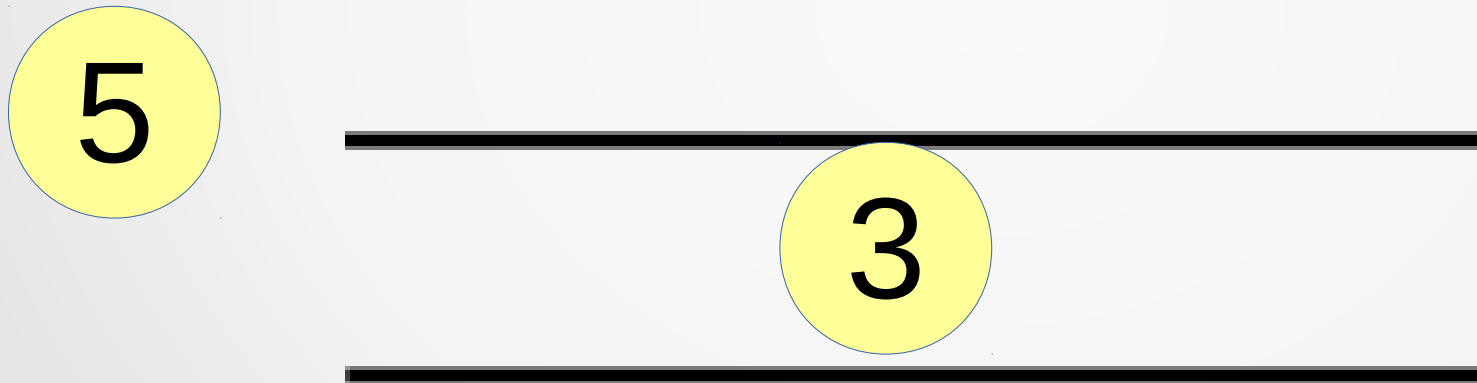
Deque: 図示

- `pushF(3)`, `pushB(4)`, `pushF(5)`, `popB()`



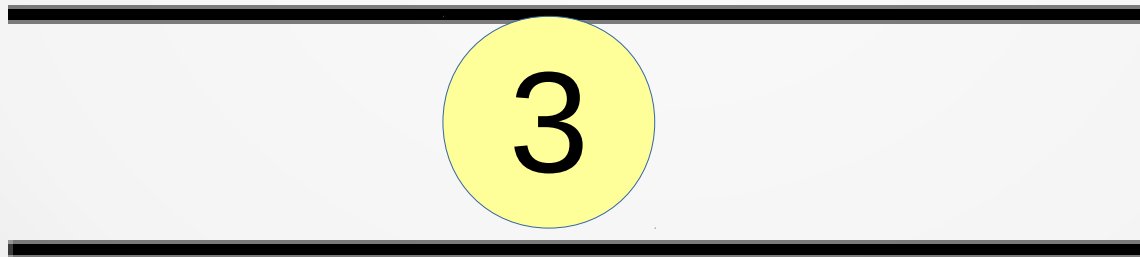
Deque: 図示

- pushF(3), pushB(4), pushF(5), popB(), popF()



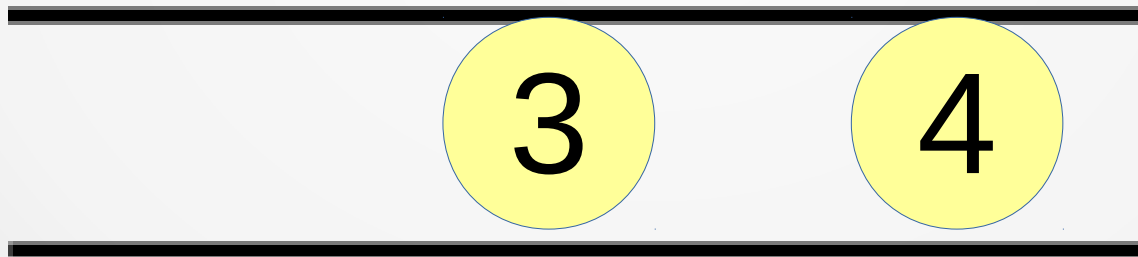
Deque: 図示

- pushF(3), pushB(4), pushF(5), popB(), popF()



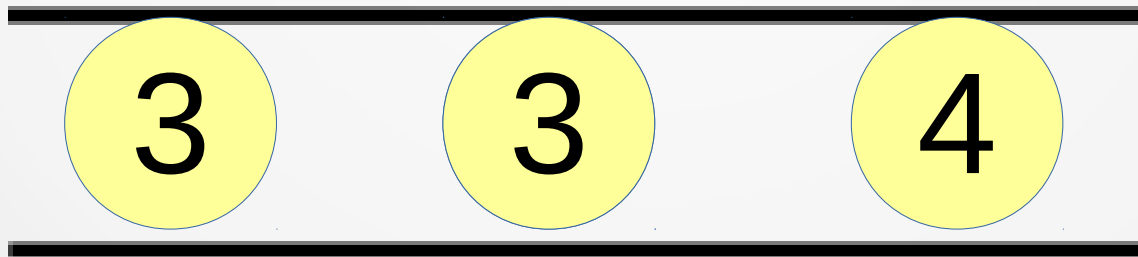
Deque: 図示

- pushF(3), pushB(4), pushF(5), popB(), popF()
pushB(4)



Deque: 図示

- pushF(3), pushB(4), pushF(5), popB(), popF()
pushB(4), pushF(3)



Deque

- 次の操作に対応したデータ構造
 - 列の先頭に値を追加 (pushF)
 - 列の末尾に値を追加 (pushB)
 - 列の先頭から値を取り出す (popF)
 - 列の末尾から値を取り出す (popB)

Deque

- 次の操作に対応したデータ構造
 - 列の先頭に値を追加 (pushF)
 - 列の末尾に値を追加 (pushB)
 - 列の先頭から値を取り出す (popF)
 - 列の末尾から値を取り出す (popB)

Queue

- 次の
- 列
- 列
- 列
- 列



(F)

(B)

(F)

(B)

有名なことわざ

DequeはStack2つで作れる

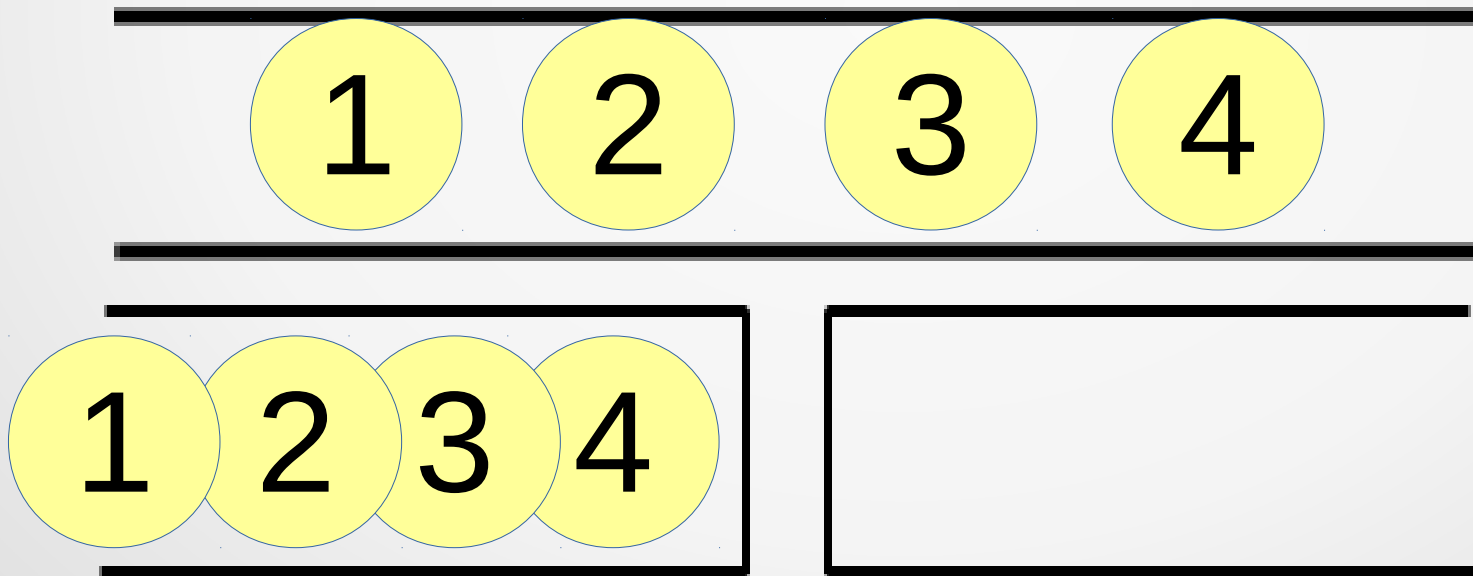
Deque (Stack \times 2): 図示

- 空のDequeの下にStackが2つあるじゃろ
 - 左が先頭(Front), 右が末尾 (Back)



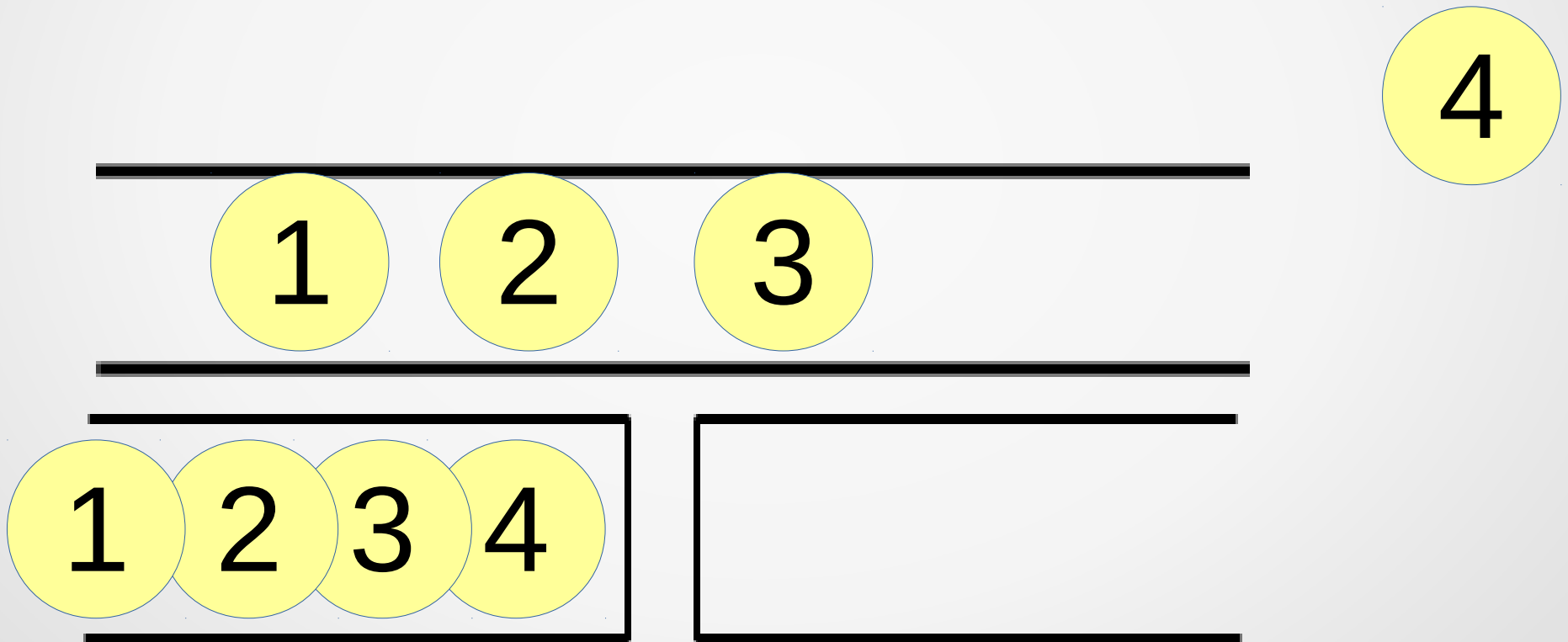
Deque (Stack \times 2): 図示

- pushF(1), pushF(2), pushF(3), pushF(4)



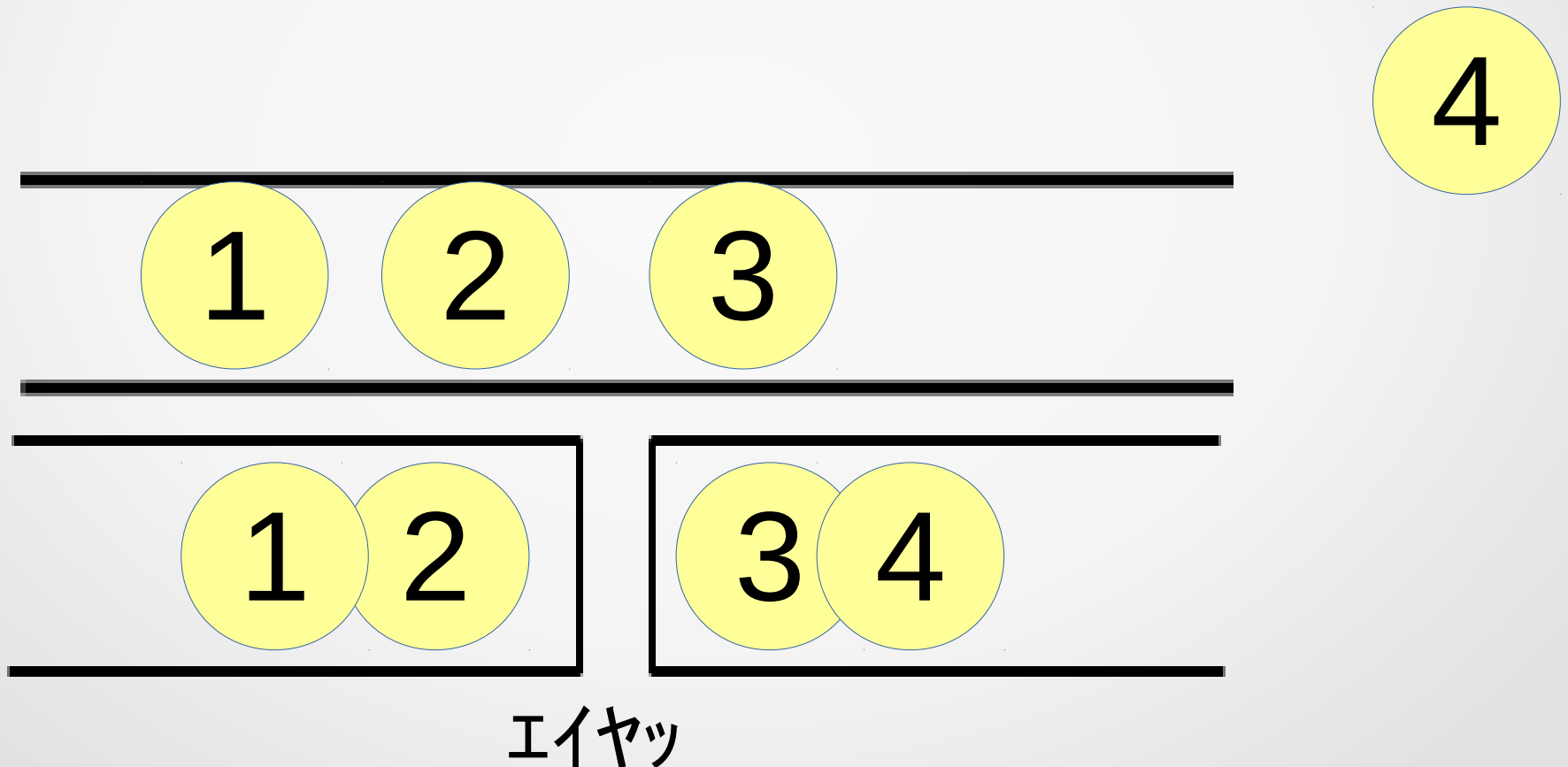
Deque (Stack × 2): 図示

- pushF(1), pushF(2), pushF(3), pushF(4)
popB()



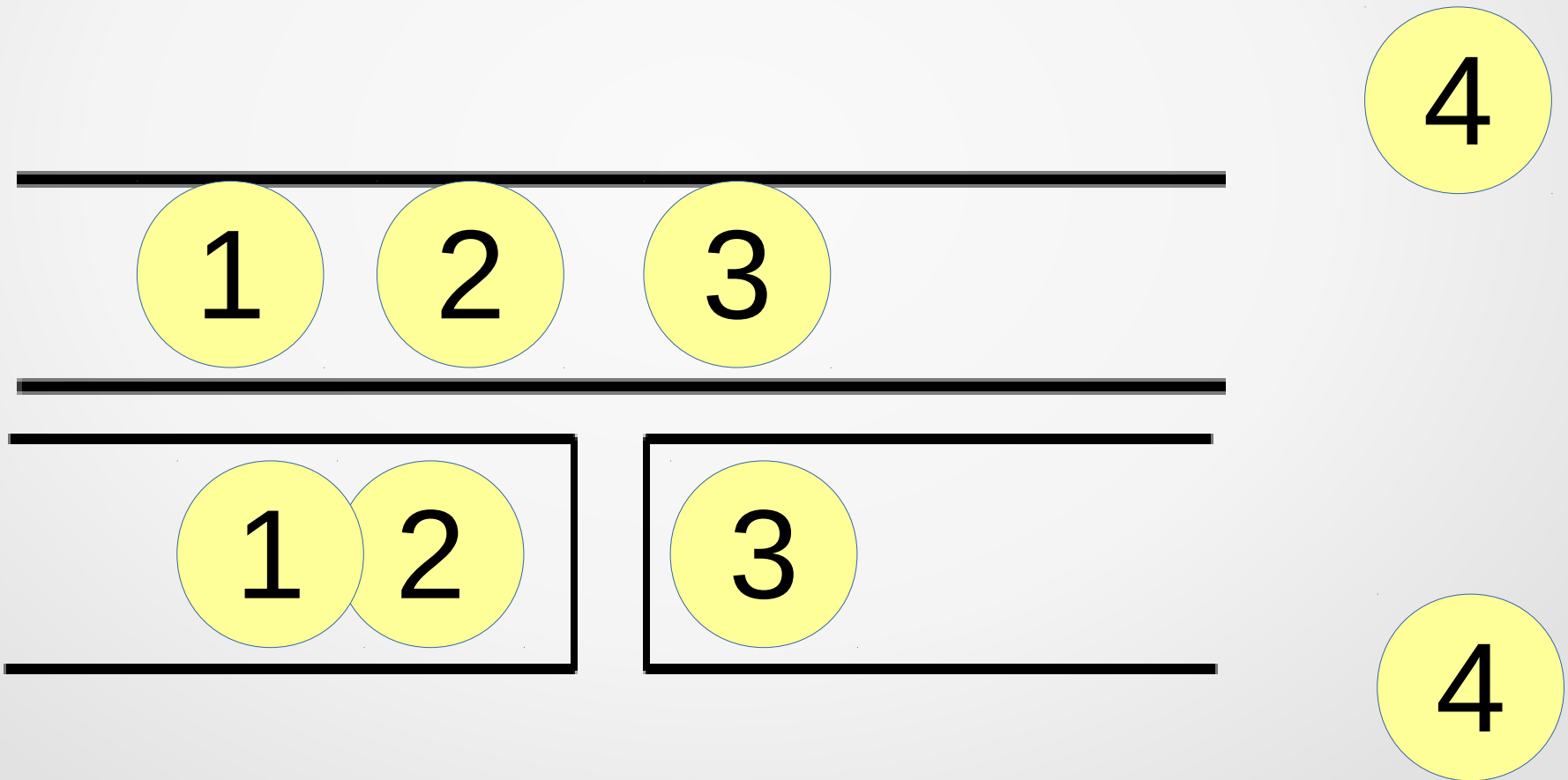
Deque (Stack × 2): 図示

- pushF(1), pushF(2), pushF(3), pushF(4)
popB()



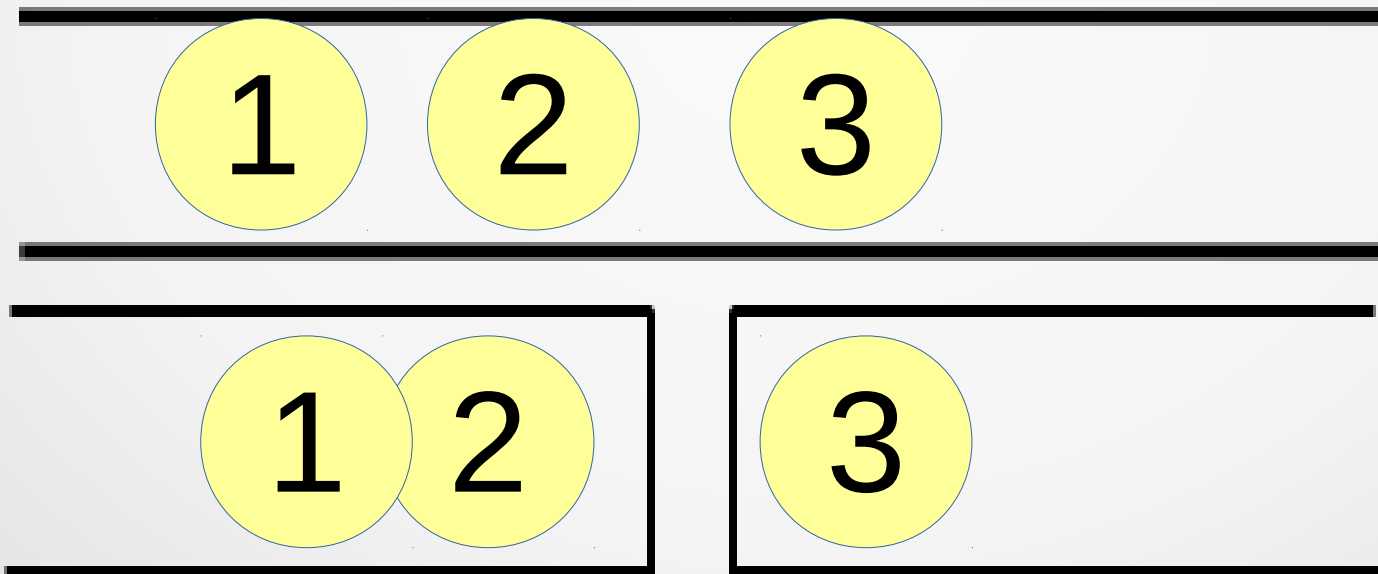
Deque (Stack × 2): 図示

- pushF(1), pushF(2), pushF(3), pushF(4)
popB()



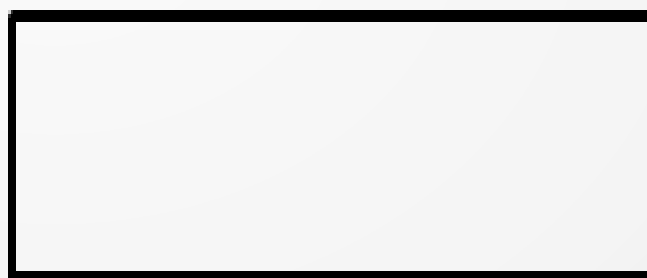
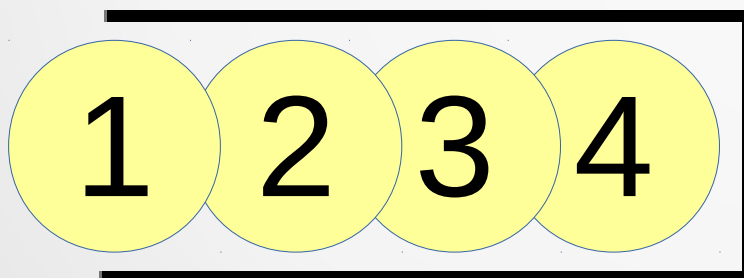
Deque (Stack × 2): 図示

- pushF(1), pushF(2), pushF(3), pushF(4)
popB()



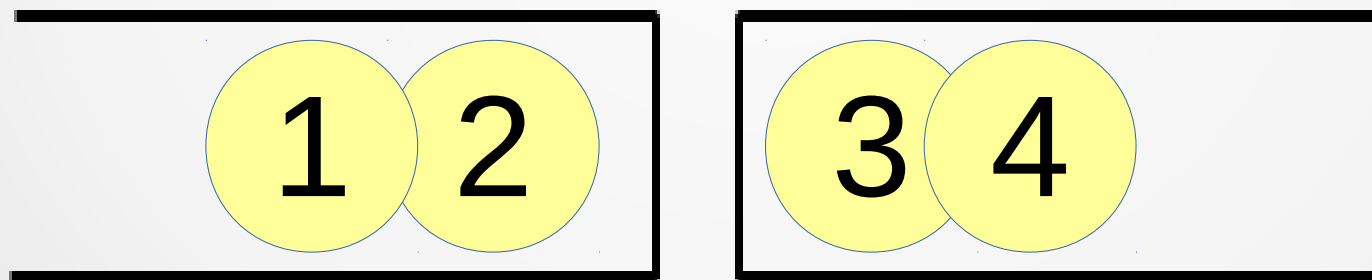
Deque(Stack×2)

- Stackはさっき実装したばかりだしやるだけじゃん！（デジャヴ）
- 一番ややこしいのはpopするときにしたい方のStackが空だった時（デジャヴ）



Deque(Stack×2)

- Stackはさっき実装したばかりだしやるだけじゃん！（デジャヴ）
- 一番ややこしいのはpopするときにしたい方のStackが空だった時（デジャヴ）



エイヤッ

Deque(Stack×2)

- Stackはさっき実装したばかりだしやるだけじゃん！
(デジャヴ)
- 一番ややこしいのはpopするときにしたい方のStackが空だった時 (デジャヴ)
- **Eイヤッ**は空じゃないStackの中身を半分ずつにわけ
る操作
 - リストの最初 k 個分をとりだす take
 - リストの最初 k 個を除いたリストを得る drop
 - これらを使えば便利

Deque(Stack×2)

- Stackはさっき実装したばかりだしやるだけじゃん！（デジャヴ）
- 一番ややこしいのはpopするときにしたい方のStackが空だった時（デジャヴ）
- **Eイヤッ**は空じゃないStackの中身を半分ずつにわけける操作
 - 空じゃない方の奥側半분을逆転して空の方につっこむ
 -

Deque: 実装

(実装をここに書く)

(説明をここに書く)

Deque: 実装

```
Deque a = D [a] [a]
```

```
pushF (D xs ys) x = D (x:xs) ys
```

```
pushB (D xs ys) y = D xs (y:ys)
```

pushFとpushB (簡単)

Deque: 実装

```
Deque a = D [a] [a]
```

```
popF (D x:xs ys) = (x, (D xs ys))
```

左側が空じゃない時のpopF

Deque: 実装

```
Deque a = D [a] [a]
```

```
popF (D x:xs ys) = (x, (D xs ys))
```

```
popF (D [] ys) = popF (D lh rh)
```

```
  where lh = take h ys
```

```
        rh = reverse (drop h ys)
```

```
        h  = (length ys) `div` 2
```

左側が空の時のpopF

Deque: 実装

```
Deque a = D [a] [a]
```

```
popB (D xs y:ys) = (y, (D xs ys))
```

```
popB (D xs []) = popB (D lh rh)
```

```
  where lh = reverse (drop h xs)
```

```
        rh = take h xs
```

```
        h  = (length xs) `div` 2
```

popBも同様

クリックしてタイトルを !

```

-- Data Deque d = D [] []

pushF (D xs ys) x = D (x:xs) ys
pushB (D xs ys) y = D xs (y:ys)

popF (D xs ys) = (x, (D xs ys))
popB (D xs []) = popF (D [] (reverse xs))

Data Deque d = D [] []

pushF (D xs ys) x = D (x:xs) ys
pushB (D xs ys) y = D xs (y:ys)

popF (D xs ys) = (x, (D xs ys))
popF (D [] ys) = popF (D lh rh)
    where lh = reverse (drop h ys)
          rh = take h ys
          h  = length ys

popB (D xs y:ys) = (y, (D xs ys))
popB (D xs []) = popF (D lh rh)
    where lh = take h xs
          rh = reverse (drop h xs)
          h  = length xs

```

やったぜ